

令和 7 年 4 月 3 日

日本パラ陸上競技連盟(知的) 御中

異議申立書

異議の対象：令和 7 年 3 月 28 日付 2025Virtus 世界陸上競技選手権日本代表選手の選考について

異議の内容：

① 強化指定規程と派遣基準のねじれによる選手の権利侵害について

現行の派遣標準記録は、強化指定記録と比較して一部の種目で著しい不整合が生じています。具体的には、200m の強化記録は 22 秒 39 であるにもかかわらず、派遣標準記録は 22 秒 06 と、強化指定選手として認定された選手でさえ国際大会に派遣されない状況が生じ得ます。実際に、200m 強化指定選手である重松颯太選手は、現時点でこのような状況に陥っています。一方で、例えば 5000m では、強化指定記録は 14 分 43 秒 12 ですが、派遣標準記録は 15 分 08 秒 28 と、強化指定記録を満たしていない選手でも国際大会に派遣される可能性があります。このように、強化指定選手の価値が明確に定義されているにもかかわらず、種目によって派遣基準との不整合が生じることで、制度全体の信頼性や強化指定選手としての価値が著しく低下しています。

また、Virtus 強化指定規程には「派遣選手として対象期間中に強化指定選手相当と認められた者も対象者とする」とありますが、これは例外的措置であり、本来の強化指定記録の趣旨や意味を曖昧にさせ、強化指定選手の価値をさらに損なう恐れや、特定の種目・選手を恣意的に選考できてしまう可能性が生じます。本来の強化指定記録の基準を超えていない選手が国際大会に派遣されることが常態化すれば、強化指定制度そのものの意義が揺らぎ、選考の公平性が著しく損なわれます。

② 種目間における派遣標準記録設定の統計的乖離について

400mH および 200m の派遣標準記録設定は、統計的観点から他種目と比較して異常に厳しい基準になっています。特に 400mH(Z スコア-1.34、出現確率 14.3%)および 200m(Z スコア-1.39、出現確率 16.7%)は、過去のメダリストを母集団とした平均から大きく乖離しており、統計的に達成が極めて困難な基準です。一方、100m や 5000m では比較的妥当な記録となっています。また、派遣標準記録及び過去のメダリストの記録、パーセンタイル予測から算出したメダル獲得記録を示したグラフ(添付資料参照)からも、特に 400mH の派遣標準記録が他種目と比較して厳しい設定であると考えられ、派遣基準の公平性に重大な疑義を持ちます。これらの差は、公平かつ科学的根拠に基づくべき派遣基準として著しく不合理であり、選手間に不公平感をもたらし、選手強化や競技力向上の妨げとなります。

Virtus 強化指定規程内の「派遣選手として対象期間中に強化指定選手相当と認められた者も対象者とする」という特例措置は、派遣標準記録の不整合性を助長し、本来の公平な選手選考の趣旨を逸脱させる可能性があります。制度の整合性を維持するためにも、特例的措置に依存せず、種目間の統一された派遣基準設定が求められます。

以上の理由から、派遣標準記録設定の公平性・整合性を見直し、速やかに改善措置を講じることを要求いたします。また、現時点で公表されている基準及び派遣標準記録を算出・設定した客観的根拠の説明を要求いたします。

添付資料：各種目(400mH,5000m,200m,100m)におけるメダリスト記録を母集団とした Z スコア及びパーセンタイル予測